

## 早稲田大学 商学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	昨年は、記号問題44・記述問題16だったが、今年は記号問題35・記述問題13・論述問題(100字)となった。全体に昨年に比べ難化した。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[ ]	古代ギリシア・古代ローマ	ギリシアの哲学者についての正誤判定は問題文がつたないので力量のある受験生があまり考えすぎるとかえって迷うことになりかねない。単純に考えて即答したい。問E - 2のソクラテスはペロポネソス戦争とその戦後の時代の人物。こうした、文化史関係の人物とその活動した時代の照合問題は早大では頻出分野。問I - 1のプトレマイオスは2世紀の人物。	標準
[ ]	中国史における民衆反乱	大問 と雰囲気の酷似した正誤判定で と同様に問題文がつたない。出題文に丁寧に受験生の力量をはかろうという真摯さが感じられないのは残念である。問Lの「王朝の滅亡と民衆反乱の伝統的關係」と関連する毛沢東の革命路線・政治路線を選ばせるのは難問。選択肢3の「大躍進」と4の「第2次五カ年計画」はほぼ同義。2の「中国土地法大綱」にいう地主制度廃止は、李自成や太平天国などによって繰り返されてきた貧農扇動にほかならない。	標準
[ ]	「17世紀の危機」	正誤判定は標準的だが、年代配列は難しい。問E - 3のイギリス銀行は1694年の創設。対仏戦争(ファルツ継承戦争)の戦費調達のためホイッグ党系政治家・実業家によって設立された。	一部難

番号	出題内容	コメント	難易度
[ ]	1920年代の米国	記述式の空欄補充のうち2「ベルトコンベア方式」、4「月賦販売」、6「リュミエール」、8「トーキー」、10「1920」は難しい。とくに6と10は事前の対策は困難である。その点では「アメリカ的生活様式」についての100字論述は違う。ある人にとってはどうしようもない難問で、ある人にとっては当たり前だったろう。型にはまった受験準備という前提だと、山川用語集の「大量生産・大量消費」の項目の説明文がそのまま転用可能である。そこでは「価値観の画一化」と「エネルギーや資源の浪費」・「地球環境破壊」で結んでいる。一方、教科書だと山川『詳説世界史B』はこの部分をかすりもしていない。しかし、東京書籍の『世界史B』だとかなり詳しい説明がなされている。この問題に関しては、東京書籍を読み込んでいた人はラッキーだったといわざるを得ない。しかし、ふだんから「グローバリゼーション」とは？とか、「米国型社会のプラスマイナス」といったことに関心を持っていれば、満点とはいわなくともかなりの得点が可能な文章を書けたのではないかと	難

〔総合コメント〕

マーク式問題のうち正誤判定は問題文に難があるとはいえ得点しやすいものが大半である。それに対して年代配列問題は一筋縄ではいかない。普段の学習にさいして年代にとくに敏感でないと、本番では「勘」に頼ることになってしまう。年代については特段の注意が必要である。記述式のうち空欄補充は、今年のレベルだとすると一般的な受験対策で確実に得点できるのは70パーセントが上限だろう。「リュミエール兄弟」レベルは対処不能である。ここではしっかり点のとれる問題で取りこぼしをしないことが肝要である。最後の論述は、出題される年とない年があるが、出題を前提に準備すべきである。07年のテーマ「全国産業復興法」、06年の「ブロン＝ウッズ体制」というふうに20世紀の米国に偏って出題されている。こうした分野について一般教養的な感覚も含めて学習を怠らないようにしたい。